

新たな

認定看護師教育が始まる

第1回 静岡県立静岡がんセンター

日本看護協会では、「あらゆる場での看護」に対応すべく2020年度から特定行為研修を組み込んだ新たな認定看護師教育（B課程）をスタートさせた。本連載では、本年4月からB課程を開講した教育機関と受講中の看護職にスポットを当てる（全3回）。

地域医療を担う人材輩出を目指す

静岡県立静岡がんセンターは、全国でもトップクラスのがん患者診療数を誇る、地域のがん診療連携拠点病院。同センターの役割は、専門的にがんの臨床・研究を担うと同時に、日本のがん診療の未来を担う人々の養成、今後の地域医療構想にかなう看護職を輩出することにある。と谷口貴子認定看護師教育課程長は語る。

しかし、特定行為研修を組み込んだ新たな認定看護師教育（B課程）の開講には、不安があった。日本看護協会は2016年からB課程の青写真を示していたが、「正直、未知数で、まずは当院の認定看護師に特定行為研修を受講してもらうことから始めました」と振り返る。

そんな谷口課程長の不安を払しょくしたのは、研修を修了した認定看護師の言葉だった。「認定看護師としての専門的な知識に厚みが増

し、多角的な視点を持てるようになった」と聞き、新たな認定看護師教育への転換期だと強く感じました」。

ことし4月から緩和ケアを含むB課程5分野を開講した。研修者からは、退院後を見据えたケアや在宅復帰後の訪問看護ステーションなどとの連携への関心の高さを肌で感じた。

特に小規模の医療機関や施設からの期待は大きいようで「認定看護師としての看護実践能力の向上はもちろん、地域連携室や訪問看護ステーションと協働できる地域医療を担う人材を育てたいです」と谷口課程長は意気込みを語る。

在宅療養を支える訪問看護師に

静岡県立静岡がんセンターのB課程の一期生として緩和ケア分野を受講する石田由紀子さん。石田さんは、急性期病棟で9年間勤務した後、西東京市に急る陽だまり訪問看護ステーションに勤務して3年目を迎える。在宅現場ではターミナルケアに携わる機会も増え、緩和ケアの重要性を痛感。医師不在の状況でも、利用者の病態に合わせた緩和ケアを提供できるようになりたい、在宅でのターミナル期を支えたい、との思いから認定看護師を志望した。

受講から数カ月が経過したが、eラーニングではこれまでの看護師としての学びを総ざらいし、集合研修でさらに一つ一つの練度を高めている。「臨床推論力や病態判断力が培われ、実践力につながっていることを集合研修でじわじわ感じているところです」と手応えを語る。来年3月には職場に復帰し、訪問看護の現場で研修での学びを生かすことに意欲を示している。



ソーシャルディスタンスを保って集合研修を実施

新型コロナウイルス感染症対策のため、開講式や研修日程、実施方法など大幅な変更を迫られ、全てが試行錯誤で始まった静岡県立静岡がんセンターのB課程。開講から6カ月経過した今、「まずは一步踏み出してみることが大切です」と谷口課程長は開講を検討している教育機関の関係者へ呼び掛ける。

同センターでは他機関・施設の視察も受け入れており、その理由については「不安があっても当然です。一緒に歩み、教育できる機関を増やせたら」と話す。地域へと広がる看護のニーズに応える認定看護師の、新たな教育に向けた着実なサイクルが回り始めている。

教育課程概要：2020年4月より認定看護師教育（B課程）を、皮膚・排泄ケア、緩和ケア、がん薬物療法看護、がん放射線療法看護、乳がん看護の5分野で開講。研修者48人